

岩崎 純一 著

『岩崎純一全集』 第七卷「序説、 総記（七）」

電磁氣的技術・情報通信技術による岩崎純
一総合アーカイブの管理と提供活動、個人
アーカイブ・個人の知的作業（知的財産・
著作物）の体系化・組織化への計算機科学・
情報科学・情報アーキテクチャの応用

編纂、監修 岩崎純一学術研究所『岩崎純一全集』編纂局

巻頭言

本巻は、『岩崎純一全集』の第七巻を成し、岩崎の活動全般に利用する電磁氣的技術や情報通信技術について述べ、さらにはインフォマティクス（informatics）全般の未来像をも述べるものである。

目次

巻頭言

第一編 各種の電磁氣的技術、情報通信技術（ICT）による岩崎純一の著作物及び活動等の管理、提供

第一部 岩崎純一の電磁氣的技術、情報通信技術（ICT）活動とその定義、及び、岩崎純一の物権、所有権、知的財産権、著作権、著作者人格権、著作隣接権等の譲渡部分を除く全権の保持の確認

第二部 「電子化」・「電子書籍」と「電磁的」・「電磁氣的」（電磁的記録等）との関係

第三部 岩崎純一及び IJAI の連絡先、メール等

第二編 電磁氣的技術、情報通信技術活動への協力者、参加者の登用

第一部 登用方法

第二部 登用される者

第三部 登用されない者

第四部 例外条件

第五部 特殊協力者の協力、参加

第一章 精神に障害を有する者

第二章 身体に障害を有する者

第三章 一般国民生活とは異なる言語・文字体系、暦法、度量衡、慣習、住居等によって生活する者（巫女等）

第六部 海外からの協力、参加

第三編 「岩崎純一総合アーカイブ」（IJCA）及び

『岩崎純一全集』（IJCW）の制作環境、電子化及び管理システム

第一部 IJCW 以外の IJCA の情報資料・コンテンツの制作環境と電子化

第二部 IJCW の情報資料・コンテンツの制作環境と電子化

第一章 電磁氣的制作方法をとらない場合

第二章 使用パソコン（マシン・OS）

第三章 使用ソフトウェア

第三部 管理システム

第四編 「岩崎純一学術研究所」（IJAI）の運営システム

第五編 「岩崎式十進分類法」（IJDC）の管理システム

第六編 IJCA 及び IJCW の提供システム

第一部 ウェブサイトの制作環境、管理及び運営

第一章 リポジトリの構築及びウェブサイトの URL とディレクトリ構造

第二章 制作環境

第三章 稼動状況・障害情報

第四章 閲覧推奨環境等

第二部 閲覧室の運営・管理システム及び閲覧システム

第三部 電子書籍、電子学術誌の出版

第四部 外部リポジトリ

第七編 岩崎純一の外部活動（講義、フィールドワーク等）における技術提供

第八編 法令に基づく表示

第九編 個別の活動に係る各関係者向けの内部規程または注意・留意・表記事項の策定
及びその内容

2004年1月10日 起筆
2004年4月24日 公開
2017年6月10日 更新
2017年10月9日 更新
2018年4月22日 更新
2019年2月9日 最終更新

第一編 各種の電磁氣的技術、情報通信技術（ICT）による岩崎純一の著作物及び活動等の管理、提供

第一部 岩崎純一の電磁氣的技術、情報通信技術（ICT）活動とその定義、及び、岩崎純一の物権、所有権、知的財産権、著作権、著作者人格権、著作隣接権等の譲渡部分を除く全権の保持の確認

岩崎純一は、IJAIにおいて、第二巻に定めるIJCA及びIJCWに含まれる製作物及び著作物の管理、提供等に要するあらゆる電磁氣的技術、情報通信技術を担当し統括する最高責任者である。

並びに、第二巻の同項においても確認する通り、IJCA及びIJCWに含まれる岩崎純一の製作物について、その物権、所有権等は、譲渡部分を除く全部を岩崎純一が保持する。また、IJCA及びIJCWに含まれる岩崎純一の著作物について、その知的財産権、著作権、著作者人格権、著作隣接権等は、譲渡部分を除く全部を岩崎純一が保持する。IJAIは、これら岩崎純一の著作物の著作権等の管理をも行う。

これら一連の知的作業の組織化にあたっては、岩崎以外の構成員（所員）においても、図書館情報学、情報科学、資料組織論、情報アーキテクチャ、情報工学、計算機科学等の諸関連分野を的確に応用し、高い遵法精神をもってこれを行わなければならない。

第二部 「電子化」・「電子書籍」と「電磁的」・「電磁氣的」（電磁的記録等）との関係

なお、本巻のみならずIJCA及びIJCW内の記述に「電子化」または「電子書籍」とある場合、俗称に従って「電子」と表記しているのみであって、実際には「電磁（気）化」全般または「電磁（気）的書籍」全般を指す。「電子的記録・記録媒体・記録物・作用・活動」のうちには、「電氣的記録・記録媒体・記録物・作用・活動」のみならず、これと「磁氣的記録・記録媒体・記録物・作用・活動」の両方を含む。

IJCA及びIJCWに含まれる岩崎の一部の著作物が出版社によって有料の「電子書籍」・「電子文書」として出版されていることから、他の制作物・著作物についても「電子」の語を用いるが、実際のこれらの管理・編纂・監修活動全般、とりわけ情報資料・コンテンツと

しての IJCA 及び IJCW の製作物及び著作物の管理にあたっては、磁氣的記録方法を優先的に用いるものである。

また、IJCA 及び IJCW においては、我が国における「電磁的記録」の二通りの法的規定（下記に示す）のうち、情報公開法等に定められる規定を採用し、これに基づいて各記録を分類、解釈、記述する。従って、ここではデジタルデータのみならず、多くのアナログデータ（電子計算機による情報処理の用に供されないもの）も「電磁的記録」である。

- 刑法（第七条の二）、電子記録債権法（第二条第四項）、民間事業者等が行う書面の保存等における情報通信の技術の利用に関する法律（e-文書法）（第二条第三項）等における「電磁的記録」の規定

「電子的方式、磁氣的方式その他の知覚によっては認識することができない方式で作られる記録であつて、電子計算機による情報処理の用に供されるもの」

- 行政機関の保有する情報の公開に関する法律（情報公開法）（第二条第二項）等における「電磁的記録」の規定

「電子的方式、磁氣的方式その他の知覚によっては認識することができない方式で作られた記録」

第三部 岩崎純一及び IJAI の連絡先、メール等

本巻の内容についてのお問合せは、第二巻に掲載したメールアドレス宛にご送付いただきたい。または、メールフォームも適宜利用されたい。

第二編 電磁氣的技術、情報通信技術活動への協力者、参加者の登用

第一部 登用方法

IJAI における岩崎純一以外の電磁氣的技術、情報通信技術担当者は、第二巻に定める協力者、参加者より、岩崎が登用した者である。

岩崎純一及び IJAI の電磁氣的技術、情報通信技術活動への協力者、参加者の登用は、別途定める協力者及び参加者の登用方法により行う。

第二部 登用される者

岩崎純一は、IJAI において、唯一の代表者であり、永久的構成員である。電磁氣的技術、情報通信技術分野においても同様である。

岩崎純一及び IJAI の活動への協力者、参加者として登用されるには、別途定める条件を

全て満たし、岩崎純一及び IJAI の許可を得なければならない。電磁氣的技術、情報通信技術活動への協力者、参加者も同様である。

第三部 登用されない者

岩崎純一及び IJAI の活動への協力者、参加者として登用されない者として別途定める者は、協力者、参加者として認めない。電磁氣的技術、情報通信技術活動への協力者、参加者も同様である。イエローリスト、レッドリスト、ブラックリストへの掲載者の扱いも、別途定める通りである。

第四部 例外条件

岩崎純一及び IJAI の活動への例外的な協力者、参加者として別途定める者は、例外的に協力者、参加者としての被登用資格を有する。電磁氣的技術、情報通信技術活動への協力者、参加者も同様である。

第五部 特殊協力者の協力、参加

第一章 精神に障害を有する者

精神に障害を有する者は、被登用条件を満たす限り、協力者、参加者たる資格を、精神障害を理由としては失わない。電磁氣的技術、情報通信技術活動への協力者、参加者も同様である。

第二章 身体に障害を有する者

身体に障害を有する者は、被登用条件を満たす限り、協力者、参加者たる資格を、身体障害を理由としては失わない。電磁氣的技術、情報通信技術活動への協力者、参加者も同様である。

第三章 一般国民生活とは異なる言語・文字体系、暦法、度量衡、慣習、住居等によって生活する者（巫女等）

一般国民生活とは異なる言語・文字体系、暦法、度量衡、慣習、住居等によって生活する者（巫女等）は、協力者、参加者たるにあたって、別途定める暦法等の規定に従って、IJCA 及び IJCW の編纂、IJAI の運営、ウェブサイトの更新、その他の岩崎の活動への協力を行

わなければならない。但し、太陰太陽暦（旧暦）を使用した文芸等、一部の著作物についてはこの限りではなく、編纂や岩崎とのデータ交換は古語や旧暦等で行って差し支えない。電磁氣的技術、情報通信技術活動への協力者、参加者も同様である。

第六部 海外からの協力、参加

日本国籍以外の国籍を有する者（居住地を問わず）及び海外に居住する日本人は、被登録条件を満たす者であっても、岩崎純一及び IJAI の電磁氣的技術、情報通信技術活動に、その一部の活動を除いては参加することができず、システムへのアクセスやログイン等、そのほとんどの権限を有することができない。

第三編 「岩崎純一総合アーカイブ」(IJCA) 及び 『岩崎純一全集』(IJCW) の制作環境、電子化及び管理システム

別添のシステム変遷表も参照せよ。

第一部 IJCW 以外の IJCA の情報資料・コンテンツの制作環境と電子化

IJCW 以外の IJCA の情報資料・コンテンツ（岩崎の著作物以外の製作物・著作物等）の制作環境は、専ら原作者の自由に委ねられる。岩崎の機械的制作物、工芸物等の製作物についても、製作物ごとに使用した道具や方法が異なる。

これらの情報資料等は、原作者の要望により IJCA の構成物として岩崎に移管された場合であっても、原作者の最終作成・更新時の状態で岩崎により保存されるが、電子化されていない作成物の電子化の要請が原作者よりあった場合は、岩崎が電子化作業を行う。

第二部 IJCW の情報資料・コンテンツの制作環境と電子化

第一章 電磁氣的制作方法をとらない場合

IJCW の一部の言語の著作物、美術の著作物等については、シャープペンシル、ペン、ボールペン、色鉛筆、画材等を用いた自筆による原稿作成、描画を行うことがある。但し、自筆による著作物についても、作成後に電子化をも行って保存することを基本とする。

第二章 使用パソコン（マシン・OS）

IJCW の情報資料・コンテンツ（岩崎の著作物）の電磁氣的制作環境のうち、使用パソコ

ン（マシン・OS）は主に下記の通りである。

■ 使用マシン

2016 年より現在まで、マシンを 2 台に減らして使用している。

↑ ↑ ↑

2015 年現在、元メーカー製（FUJITSU、NEC、Hewlett-Packard 製）のマシン 3 台をハード・ソフトの両面で改造して使用している。

ライセンスや互換性を確認した上で、古い Windows マシン（XP 以前）などから取り出したハード（HDD やメモリなどのパーツ）を現在のマシンに転用し、OS（BSD や Linux）を乗せ換えるなどしている。

常時複数台のパソコンを所有していると言え、一見すると贅沢や無駄遣いに見えるものだが、実際はゴミになるパーツを少なく抑えることができる。全体で（電気代を含めて）メーカーパソコン一台分の運用費もかかっておらず、逆にかなりのエコ運用となっている状況である。

■ 使用 OS・ディストリビューション全般

以下、OS・ディストリビューションを紹介する。

主に、文書作成作業全般を担う OS と、マルチメディア環境に特化した OS とに分かれる。（すでに使わなくなったものもあるが、過去の使用歴という意味で挙げておく。）

私の場合、パソコンでの作業・芸術創作全般（共感覚芸術・言語制作・作曲・和歌制作など）の行いやすさと、パソコンそのものへの知的関心の両方が満たされるような選び方をしているため、ほとんどの OS・ディストロそのものを芸術系 OS・ディストロにしているものである。

スクリーンショットを撮るために壁紙を分かりやすくしたが、作業中に壁紙の色や模様が気になってしまう性質であるので、普段は単色で使っている。これは、人それぞれの性格・気質によるであろう。

■ FreeBSD (BSD OS 系)



FreeBSD Project（英語公式サイト）<http://www.freebsd.org/>

FreeBSD Project（日本チーム）<http://www.freebsd.org/ja/>

（主な用途・・・サイトの制作・管理・更新、サーバーとのやり取り、PHP・JavaScriptなどのプログラミング言語、言語学・岩崎式言語体系開発、ウェブサイト閲覧）

Unix系。米国製。私はBSDよりは以下のLinux群が（使用ソフトや使用目的に合っているという意味で）好みであるが、OSとしての魅力はBSDも劣らないであろう。

■ Debian (Linux OS 系)



Debian（英語公式サイト）<http://www.debian.org/>

Debian JP Project（日本チーム）<http://www.debian.or.jp/>

（主な用途・・・サイトの制作・管理・更新、サーバーとのやり取り、言語学・共感覚・精神病理学・和歌関連の文書コンテンツ制作）

Linux系OSの古参で、Linuxディストリビューションの中でもかなり多く使われている。開発者向けOSである。

この私のサイトを公開している有料サーバーの「さくらインターネット」が支援しており、ファイル転送、サイトメンテナンスの際に相性がよく、快適なので、使っている。世界の開発者どうしが比較的対等な立場で意思決定を行っている。

■ Ubuntu (Linux OS 系)



Ubuntu（英語公式サイト）<http://www.ubuntu.com/>

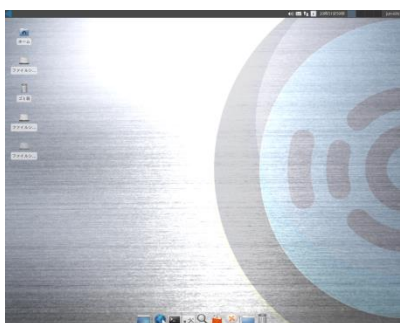
Ubuntu Japanese Team（日本チーム）<https://www.ubuntulinux.jp/>

（主な用途・・・LibreOffice での文書作成、以下の Ubuntu Studio 代替環境の構築・使用、ウェブサイト閲覧）

同じく Linux ディストリビューションで、Debian から派生したものである。

南アフリカ・イギリス（マン島）の二重市民権を持つマーク・シャトルワースを中心に、Canonical 社が従業員を雇って開発しており、意思決定は多少トップダウン的・企業적であるが、個人向けのデスクトップ環境としては、Debian よりも好まれるようである。

■ Ubuntu Studio（Linux OS 系）



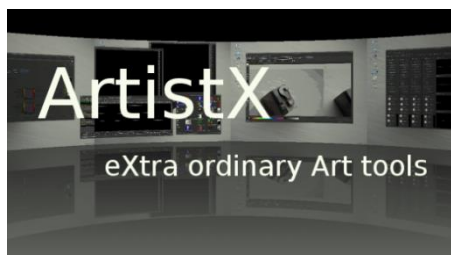
Ubuntu Studio（英語公式サイト）<http://ubuntustudio.org/>

UbuntuStudioTips（日本チーム）<https://wiki.ubuntulinux.jp/UbuntuStudioTips>

（主な用途・・・芸術作品制作の拠点、画像・動画・3DCG・作曲・音楽鑑賞・DAW・MIDI・オーディオ・波形編集などのあらゆる Linux 系芸術・音楽環境の構築・使用、言語学・和歌関連データの制作・管理・更新）

Ubuntu から派生した米国製ディストリビューション。作曲の際に使用する DAW ソフト・マルチメディアソフトが充実しており、特に Windows 対応の Cubase や Digital Performer を超えるソフトも充実してきているので、使用している。

■ ArtistX（Linux OS 系）

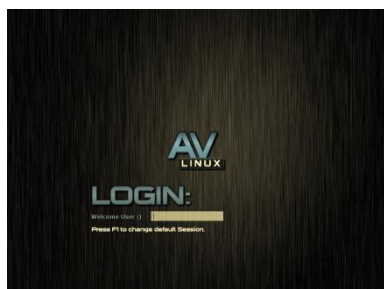


サイト制作環境等 ArtistX（公式サイト）：閉鎖

（主な用途・・・芸術作品制作の副拠点、Ardour・Rosegarden などの Linux 向け DAW 環境の構築・使用、動画制作などの各種マルチメディア関連作業、ウェブサイト閲覧）

マルチメディア機能が多彩な Linux 系。イタリア製。Debian や Ubuntu がベース。ソフトによっては、Ubuntu Studio よりも良好に機能する。

■ AV Linux (Linux OS 系)



AV Linux（公式サイト）：閉鎖

（主な用途・・・芸術・音楽関連に特化、音楽制作が中心）

こちらもマルチメディア機能が多彩な Linux 系。カナダ製。Debian がベース。場合によっては、DAW ソフトが Ubuntu Studio よりも良好に機能する。

■ Musix GNU+Linux (Linux OS 系)



Musix GNU+Linux（公式サイト）：閉鎖

（主な用途・・・音楽関連に特化、作曲・音楽鑑賞・DAW・MIDI・オーディオ・波形編集などのあらゆる Linux 系音楽環境の構築・使用）

アルゼンチン製。Debian ベースで、Ubuntu Studio、ArtistX、AV Linux よりも音楽に特化した OS・ディストリビューション。

Linux 系音楽ソフトはほぼ全て動くが、音楽以外の不要なソフトを省いたからと言ってそれほど動作が軽くなっているわけではないため、あえて音楽に特化させる必要がないとも言えそうである。

■ Windows (Microsoft Windows OS)



Microsoft Windows（日本語公式サイト）

<http://windows.microsoft.com/ja-jp/windows/home>

（主な用途・・・Microsoft Office での文書作成、Windows ユーザーのサイト・ブログ閲覧者に送るファイルの作成、共感覚関連コンテンツの制作、Cubase・Native Instruments・IK Multimedia などの Windows 向け DAW 環境の構築・使用、ウェブサイト閲覧）

圧倒的シェアを誇る Microsoft 社製 OS。現在は、Windows 10 を併用している。これまでに私個人のパソコンで使用したバージョンは、Me、XP、7、10 であり、仕事や他のクライアント様のパソコンで私が使用したバージョンは、これらに加えて 95、98、2000、Vista、8、8.1 であるので、Windows のクライアント系（非サーバー系）OS のほぼ全てのバージョンを使用したことになる。

「Mac ユーザーや Linux ユーザーがパソコン通で、Windows ユーザーが初心者だ」と主張するユーザーがいるが、それは「パソコン時代としての現代」を表現するフレーズとして不適切だと私は考える。OS それぞれに、長所もあれば短所もあるのである。

特に XP は、長期に渡り動作の安定性と人気を保ったが、そのサポートが 2014 年 4 月 9 日に終了したことは一大事件となった。同月 1 日の消費税増税が重なったため、3 月末の駆け込み需要による家電量販店や通販の混み具合は相当なものであった。

第三章 使用ソフトウェア

IJCW の情報資料・コンテンツ（岩崎の著作物）の電磁気的制作環境のうち、使用ソフトウェアは主に下記の通りである。

■ 使用ソフトウェア全般

文書作成ソフト、オフィススイートについては、IJCA 及び IJCW のほぼ全ての著作物の制作に使用しているが、その作業内容が前述のマシンに特筆すべき負荷をかけるわけではないため、ここでは主に、メモリ等に対して高負荷を生み出すマルチメディア系ソフトを載せている。

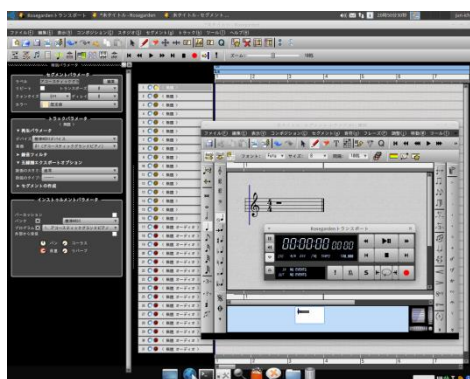
OS のプリインストールソフト・付属ソフトや簡易な無料ソフトは、掲載を省略しています。

■ 文書作成ソフト、オフィススイート

有料のものでは Microsoft Office を使用し、無料・オープンソースのものでは LibreOffice や Apache OpenOffice を併用している。しかし、後者については、2017 年以降は Apache OpenOffice よりも LibreOffice を多用している。

以前は一太郎も使用していたが、LibreOffice の安定化と高機能化に伴い、現在は使用していない。

■ MIDI 編集ソフト



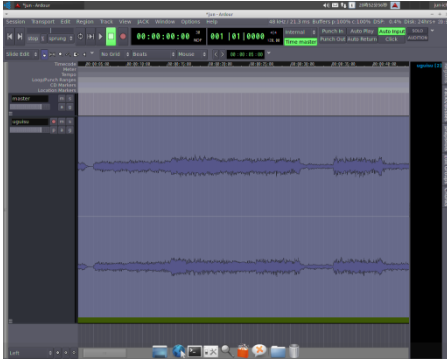
Rosegarden（公式サイト）<http://www.rosegardenmusic.com/>

MIDI 編集には、Linux 系 OS・ディストリビューションでは主に Rosegarden、Windows では Cubase（別項）を使用。

Rosegarden は、機能としては MIDI と Finale を合わせたようなものになっている。

WAV 書き出しなどの点で Cubase に劣るが、使い勝手の良さは抜群だと感じる。クラシック系音楽の制作に意外にも適している。

■ オーディオ編集ソフト



Ardour（公式サイト）<http://ardour.org/>

オーディオ編集には、Linux 系 OS・ディストリビューションでは主に Ardour、Windows では Cubase（別項）を使用。

Ardour は MIDI 編集とオーディオ編集の統合ソフトではないため、やはりそれを求める人にとっては Cubase などの高級ソフトに分があるであろうが、マルチメディア再生機構の性能（音質・音場など）は Windows よりも Linux 系ソフトがよいと感じる。

■ 総合作曲・音楽制作環境



Steinberg（メーカーサイト）<http://japan.steinberg.net/>

私は、Pro Tools や Digital Performer よりも Cubase 派であるため、長年使っている。USB ドングルを紛失しないように気を付けなければならないが。

これに好みの VST プラグインなどを読み込んで、自分仕様の環境を組み立てている。完成度の高いソフトである。

今後 DAW ソフトがどのような発展を遂げるのか、関心はもちろんあるが、個人的には、すでに現時点でも「過剰な高機能」への違和感は覚えている。

■ ソフトサンプラー



Native Instruments（メーカーサイト）

<http://www.native-instruments.com/jp/products/komplete/synths-samplers/kontakt-5-player/>

Kontakt Player は、Native Instruments が提供するソフトサンプラー。
オーケストラ音源から電子音楽系音源まで、大抵何でも鳴る。愛用している。
最近では、無料版のものでもかなりの高機能を有している。



IK Multimedia（メーカーサイト）<http://www.ikmultimedia.com/>

SampleTank や Miroslov Philharmonik など、IK Multimedia 系サンプラーで動く各種ソフトも使用している。

iPhone や iPad で動くアプリも販売されているが、私はやはりパソコン派であるので、あまり関心はない。音楽制作は、じっと座って広い画面と向き合っているほうが好きである。

■ 3DCG ソフト



SketchUp（公式サイト）<http://www.sketchup.com/>

SketchUp は、直感的な操作が可能な 3D モデリング・ソフトウェア。

建築系分野でよく使われるが、文字を建築物に見立てれば共感覚表現にも転用できるという私の勝手な発想から、自分の共感覚を視覚的・立体的に表現する際にも多用している。所有・開発元が @Last Software → Google → Trimble と変遷している。

Linux では、主に Blender を使用している。機能としては、Blender のほうが高機能と言えるかもしれない。



Terragen（公式サイト）<http://planetside.co.uk/>

Terragen は、地形描画が得意な高性能 3DCG ソフト。

私の場合、ランダムに地形を作成して和歌の構想を練るといった使い方になっている。

とは言っても、やはり現実にはない風景を作るのが楽しいソフトである。よほどのハイスペックマシンでないと動かない。私のマシンでも動きがガクガクする。

第三部 管理システム

IJCA 及び IJCW の全ての情報資料・コンテンツ（製作物・著作物等）の管理システムは、複数のコンピューターマシン、HDD、NAS 及びそれらの間のイントラネットにより構築され、厳重に管理される。

第四編 「岩崎純一学術研究所」（IJAI）の運営システム

IJCA 及び IJCW の管理システムに同様である。

別添のシステム変遷表も参照せよ。

第五編 「岩崎式十進分類法」（IJDC）の管理システム

IJCA 及び IJCW の管理システムに同様である。

別添のシステム変遷表も参照せよ。

第六編 IJCA 及び IJCW の提供システム

別添のシステム変遷表も参照せよ。

第一部 ウェブサイトの制作環境、管理及び運営

第一章 リポジトリの構築及びウェブサイトの URL とディレクトリ構造

IJAI のウェブサイトにおける IJCA 及び IJCW の提供にあたっては、WEKO や DSpace 等の既存のリポジトリモジュールを使用せず、岩崎純一 CMS をはじめとする独自のリポジトリ構築システムを装備する。

IJAI のウェブサイトのディレクトリ構造は、序巻及び第二巻に示した通りであり、これを IJCA と IJCW の各区分及び IJAI の各部班に対応させて理路整然と運営する。

また、Google 等のクローラが IJAI のウェブサイトを効率よく検索エンジンにインデックスできるよう、XML サイトマップを構築・登録する。

これらの運営方法により、利用者等が目的の情報資料に辿り着くために費やす負担を可能な限り軽減することに努める。

第二章 制作環境

IJAI のウェブサイトの制作環境は下記の通りである。

■ 岩崎純一 CMS について（自作のサイト稼動システム）



2014 年より、当サイトのほとんどのページ・コンテンツは、私の独自の簡易 CMS（コンテンツマネジメントシステム）である「岩崎純一 CMS」によって稼動している。（従来のブログや掲示板を除く。）

自分のサイトの規模の拡大に対応するために、自分でサイトの管理システムを作ったと

いう経緯である。

使用技術については、これまでの以下の各技術の応用がほとんどであるが、紹介しきれないものもある。

■ 制作ポリシー

サイトのマークアップ・プログラムソースは、jQuery 本体・掲示板・ブログを除き、テキストエディタを使用して手書き（手入力）で作成している。

WordPress などの既存の CMS は使用せず、自作 CMS を構築している。そのほうが、私としては楽しく感じている。

普段私は、この自分のサイト以外に、仕事などで 5 つの法人・団体サイトの制作・更新・メンテナンスを行っている。いずれも、別々の方々による別々のサーバー契約が終わった後に制作・管理を委任されたもので、様々なマークアップ方法を勉強せざるを得なかった。あれこれ苦心しているうちにサイト構築やプログラミングに詳しくなったという状況である。

その中でも特に IJAI のウェブサイト（旧「岩崎純一のウェブサイト」）は、色々なウェブサイト制作技術の実験場でもある。何事も勉強し続けるしかないのである。

私の制作ポリシー・モットーは、主に以下の二つである。

- ◆ どのブラウザでもなるべく満遍なく軽快に動作するようにすること。
- ◆ PHP・Perlなどを多分に使用しつつも、動的ページを静的ページとして見せて、閲覧者が精神的に落ち着いて閲覧できるようにすること。

■ 使用言語・使用技術全般

使用しているマークアップ言語・プログラミング言語などを列挙しておく。

- ◆ 言語、スタイルシート

HTML、XHTML、XML、CSS、PHP、JavaScript、Perl など

- ◆ ライブラリ、プラグイン、テンプレートエンジン

jQuery、WebGL、three.js、Smarty など



three.js

サイトそのものについては、全体のレイアウトを CSS で書いて、ヘッダやメニューなど各ページの共通部分はサーバーサイド・スクリプトの PHP でインクルードし、全体として静的 HTML に見せている。

共通部分は SSI でもインクルードできるが、掲示板（BBS）等が Perl・CGI であったこともあり、引き続き XSS(クロスサイトスクリプティング)対策のため PHP で書いている。

JavaScript は、オフにしてもコンテンツの閲覧に影響が出ないアニメーションの部分などだけに、jQuery などのライブラリとして、あるいはライブラリとセットで使っている。ただし、Google や Twitter から借用したプラグインには、JavaScript を使用したものが多いため、適宜オンにしていただければ幸いである。

その他、WebGL や Three.js は 3DCG コンテンツに使用している。こちらも JavaScript の動作が必須となるため、各自ブラウザの設定をお願い致したい。

■ HTML・XHTML・CSS のバージョンの変更歴

2004（サイト初公開時）：HTML 4.01 + CSS2.1

2005：XHTML 1.0 + CSS 2.1

2006：XHTML 1.1 + CSS 2.1

2014：HTML5 + CSS3（3DCG ゲームなどの WebGL コンテンツのみ）

2015：HTML5 + CSS3（全面的に移行）

2016：HTML 5.1 + CSS3

2017：HTML 5.2 + CSS3

■ XML サイトマップ

2014 年 10 月 4 日 サイトに設置

2017 年 10 月 3 日 仕様入れ替え

■ テンプレートエンジン



Smarty（公式サイト）<http://www.smarty.net/>

各ページの共通部分は PHP でインクルードし、頻繁に更新する部分は PHP 兼 Smarty で表示させ、いわば自作の簡易 CMS（コンテンツマネジメントシステム）の要領で制作している。

■ サーバー



さくらインターネット（公式サイト）<http://www.sakura.ad.jp/>

老舗サーバーである。障害対応が早く、良質だと考える。

PHP が使いにくいなどの以前からあった難点も払拭されてきている。

■ テキストエディタ



TeraPad（公式サイト）<http://www5f.biglobe.ne.jp/~t-susumu/>

色々なテキストエディタを使っているが、基本的にゼロから Web を作るのが好きな私としては、シンプルなテキストエディタ（Linux では medit、Windows では TeraPad やサクラエディタなど）が好みである。HTML・CSS・PHP・JavaScript など実に様々な記述に使用している。

サクラエディタ（公式サイト）<https://sakura-editor.github.io/>

2016 年 10 月以降は主にこれを使用。

■ ファイル転送・通信ソフト

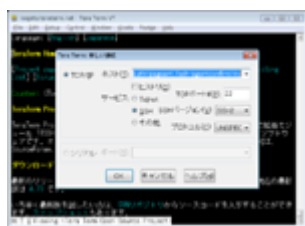


FFFTP（公式サイト）<http://www2.biglobe.ne.jp/~sota/ffftp.html>

FFFTP はファイル転送ソフトの定番。原作者による開発は終了したが、有志の手により改版されている。セキュリティ対策が遅れ気味であったが、最近はかなり対応できている様子である。

有志の方々による改版（公式サイト）<http://sourceforge.jp/projects/ffftp/>

Linux では gFTP を主に使用している。セキュリティ対策としては gFTP のほうが格段に上であるし、FFFTP は Windows 7 以降の 64bit OS への対応が（一応使えるものの）遅かったこともあり、ファイル転送・サーバーへの接続にはほとんど Linux を使用するようになった。



Tera Term（公式サイト）<http://sourceforge.jp/projects/ttssh2/>

サーバーの上階層に SSH で直接乗り込んで PHP など引っ張ってくる時に使っている。

最近ではサーバー側で、ファイルの設置階層に関係なく PHP を引き込める仕様に変更してくれているため、このようなソフトでサーバー環境の変更をあえて行わずとも、動的ページの構成が可能になっている。

■ フィード生成技術



Page2RSS（現在は使用していない。）（公式サイト）<http://page2rss.com/>

RSS フィード生成に使っていた。海外産。栄枯盛衰の激しいフィード生成サービスであるが、かろうじて生き残っているサービスの一つで、なぜかあの Google が RSS 化サービスを停止して以降、ここを推奨している。さすがに手を抜きすぎであると感じる。

国産のフィード生成サービスも沢山あったが、有償・無償に関係なくほとんど数年で前触れもなくサービスを中止した。フィード閲覧自体が時代遅れになりつつあるのだろうか。

RSS Creator（現在は使用していません。）（公式サイト）<http://rssc.dokoda.jp/>

上記 Page2RSS が動作を停止したので、代わりに使い始めた。（2014/4/3～）

昨今は本当に RSS 生成・配信の人気がない。生成・配信サービスも次々と撤退している。

■ フィード表示技術



Google Feed API（現在は使用していません。）

（公式サイト）<https://developers.google.com/feed/>

ブログのフィードの表示に Google Feed API を使っていた。この技術は、Google Developers の技術の一環であった。

情報競争の時代における Google の快進撃はいつまで続くのだろうか。



FeedWind（公式サイト）<https://feed.mikle.com/>

Google Feed API が廃止されたため、こちらに乗り換えた。使い勝手は非常に良いと感じる。

■ アクセス解析、検索エンジンへのインデックス



Google Analytics（公式サイト）<https://analytics.google.com/>

アクセス解析をビジネスに活かそうとするような商業・コーポレートサイトでもない限り、不要な解析サービスであるが、私の場合は、以下の The Webalizer と精度を比較するため、やや強引に導入している。

機能があり過ぎるのは良いとして、閲覧環境によっては動作も重い。解析の精度は、The Webalizer よりは良いが、それほど変わらない。

Google Search Console（公式サイト）<https://www.google.com/webmasters/tools/>

ここ最近では、Google が示している、検索ロボットによるインデックスの方針に不満があるため、時々しか利用していない。



The Webalizer（公式サイト）<http://www.webalizer.org/>

高機能フリーアクセス解析。さくらインターネットでも標準搭載。時々おかしな解析をするが、それらを差し引いて読み解いていけば、かなり有効に使える。

WEB 素材配布室（公式サイト）<http://web-sozai.seesaa.net/>

一見簡素なスクリプト配布屋に見えるが、配布物は良質である。良好に機能する。サーバーに合うように、少し改造して使わせていただいている。

■ 検索エンジン



Google カスタム検索エンジン（公式サイト）<https://www.google.com/cse/?hl=ja>

サイト内検索に用いている。SEO 用の色々な機能が付いているが、全部が全部有用な機能かどうかは怪しい。

■ マップ機能



Google マップ（公式サイト）<https://maps.google.co.jp/>

超音波スポット報告マップ用に用いている。Google マップの閲覧は、IE がやたらと重く、自社開発の Google Chrome か、または Firefox が軽い。

■ CGI/Perl/JavaScript プログラム



KENT WEB（公式サイト）<http://www.kent-web.com/>

老舗の CGI/Perl プログラム配布サイトである。掲示板の LIGHT BOARD と Web Patio をお借りしていた。かなり改造して使わせていただいていた。

とほほのWWW入門（公式サイト）<http://www.tohoho-web.com/>

HTML、JavaScript、CSS、CGI、Perl、PHP などのプログラムを配布する老舗サイト。かなり改造して使わせていただいている。

bassistance.de（公式サイト）<http://bassistance.de/>

プログラム配布サイト。かなり改造して使わせていただいている。

CodyHouse（公式サイト）<https://codyhouse.co/>

プログラム配布サイト。かなり改造して使わせていただいている。

smooth-scroll（公式サイト）<https://github.com/cferdinandi/smooth-scroll>

スムーズスクロール用プログラム。

■ 画像サイト

COOL TEXT（公式サイト）<https://ja.cooltext.com/>

ロゴ及び画像ジェネレーター。

SOFT ICONS（公式サイト）<http://www.softicons.com/>

アイコン配布サイト。

■ クラウドコンピューティング、オンラインストレージ



OneDrive（私のアカウントページ）<https://onedrive.live.com/?cid=e56a9cb6bb9b60b5>

Microsoft が提供するサービス。長らく SkyDrive の名称だった。

私の場合、Windows 7 の時にアカウントを取得して使い始めた。Windows 8 から SkyDrive アプリが搭載され、8.1 からは OS に統合された。その結果、8 や 8.1 を所有するパソコン初心者が誤って自分の C・D ドライブを大公開してしまうなどという事態も散見される。

欧米圏での商標権の問題により、2014 年 2 月に名称が OneDrive となった。

仕事では、よほど緊急に誰かとファイルの共同編集をするような事態がない限り、使わなくてもよい機能であろう。私の周りでも、最もセキュリティ意識の低い企業などが詳細を知らずに使い始めている。私の場合、仕事で使う気は毛頭無い。

■ SNS・動画サイト



mixi（私のアカウントページ）http://mixi.jp/show_profile.pl?id=7201334

言わずと知れた国産 SNS。最近は Twitter や Facebook の勢いに押されている。シンプルな外観と機能を捨ててゲーム・アプリ拡充に傾注したり、ユーザーの意向を軽視して足あと機能を廃止・復活したりしたのが裏目に出たようである。



Twitter（私のアカウントページ）https://twitter.com/iwasaki_j

最近流行の「つぶやき」とはどんなものかと思い、私も始めてみたのであった。そうしたら、やはり「つぶやき」は「つぶやき」、短文であるため、何かを主張したり議論したりするようなことにはあまり使えそうもない。それらをしようとすると、アフォリズムとして書くしかないため、相当に言葉を選んで書かない限り、簡単に誹謗や喧嘩になるであろう。

私にはブログのほうが使いやすい。Twitter の雰囲気はあまり好きではないが、勉強のた

めにアカウントを持っている状態である。



Facebook（私のアカウントページ）<https://www.facebook.com/iwasaki.j>

遅ればせながら、2017 年から Facebook を始めた。



Google+（私のアカウントページ）

<https://plus.google.com/114771680596253599093#114771680596253599093/posts>

（以下、2019 年 2 月 9 日に追記）

4 月 2 日にサービス終了予定のため、2 月 9 日にアカウント閉鎖。

（追記終わり）

ほとんど使っていない。私は Facebook があまり好きではない（Facebook の規約が好きではない）ため、その代わりに試しに使っている。

それにしても、Google も Google で、規約・アカウント取得・API など色々と組み合わせれば、Facebook と同等かそれ以上のトリックを使用していることが分かる。米軍や Google が共同で行っている諜報活動、軍事活動のうち公表されているものについては、そこかしこで紹介しておいた。「情報機関は必ず諜報機関になり、最後は詐欺組織になる」というのは、今の時代に当たり前のようには持っておくべき知識であろう。気を付けて使うべきである。



YouTube（私のアカウントページ）<http://www.youtube.com/user/iwasakijunichi>

2006 年に Google が完全子会社化したが、いまだに Google らしからぬ独自のサービスを展開している。他の Google のサービスどうしのような統一感はないのが、長所でも短所でもあるだろう。

第三章 稼働状況・障害情報

2004 年 1 月 10 日 起筆

2004 年 4 月 24 日 公開

2017年6月10日 最終更新

ウェブサイト及び岩崎純一 CMS の稼働状況及び障害情報は、ウェブサイト上に掲載する。
正常に稼働している場合、下記の如く掲載する。

- 岩崎純一 CMS (IJCA・IJCW の統括管理・総合編纂のためのコンテンツ・マネジメント・システム)：正常稼働中
 - ※ 『岩崎純一全集』編纂局システム：正常稼働中
 - ※ 女性専用ウェブスペース：正常稼働中
 - ※ 連携女性専用施設の閲覧室の管理・閲覧システム：正常稼働中

障害情報がある場合、「正常稼働中」を当該情報に書き換える。

なお、IJAI の運営システム自体に障害がある場合は、全てのログイン権限を保持する岩崎が協力者に伝達した上、自ら修復する。

また、不正アクセスやサーバー事業者の破綻への対策も万全を期する。

IJAI のウェブサイト（旧「岩崎純一のウェブサイト」）のほとんどのコンテンツは、有料サーバーにて公開しているものである。（mixi・Twitter・YouTube などの無料外部サイトは除く。）

全コンテンツ（有料サーバー、外部サイトを問わず）について、複数のバックアップ・ミラーリングや不正アクセス・マルウェア対策を行っている。

現在のところ全ての不正アクセス・マルウェアを遮断できているが、万が一サイトの改竄被害などに遭った場合には、ただちにその旨を閲覧者に対しトップページにて報告し、原因を究明した上でサイトの復旧作業に当たる。

また、もしサーバー事業者が破綻・倒産し、サイトが閲覧不能となった場合には、サーバー利用者への被害状況（データの破損・消失の具合、金銭的被害など）を確認したのち、なるべく数日以内に他のサーバーにてサイトを再公開する。

（サイトのトップページおよび各ページの URL は変わらない。）

実際の技術面にご関心のある方は、以下のページも参照されたい。

- アクセス解析データ書庫
- 個人サイトの不正アクセス・改竄対策（こだわりのある管理者向け）

第四章 閲覧推奨環境等

IJAI のウェブサイトの閲覧推奨環境等は下記の通りである。

■ Windows XP と Internet Explorer 8 の組み合わせでの閲覧についての注意点

当サイトは、2015 年 2 月より全面的に最新の HTML5 + CSS3 での記述・構成に切り替えている。

これ以降は、2014 年 4 月 9 日に Microsoft がサポートを終了した Windows XP と Internet Explorer 8 の組み合わせ（あるいは、それ以前の Windows と Internet Explorer の組み合わせ）での閲覧の場合、一部のコンテンツ（特に、最新の機能、デザイン、アニメーションを含むもの）が閲覧できないおそれがある。

（既存のコンテンツのテキスト部分は、今まで通りご覧いただける。）

Windows XP のシェアは現在でも一定以上を占めるが、XP のサポートが切れたことに伴い、同日以降は XP マシンでの閲覧確認は岩崎の側では行わない。ただし、閲覧者側からの閲覧上の不具合のご指摘には対応している。

なるべく Windows XP と Internet Explorer 8 の組み合わせにも対応できるよう HTML + CSS を組んでいるが、これらの古い組み合わせのクライアントパソコン側に発生したセキュリティ上の問題については対応しない。

HTML 等の変更歴については、HTML・XHTML・CSS のバージョンの変更歴をご参照いただきたい。

■ 文字コード

当サイトの大部分は、文字コード Unicode (UTF-8) で制作している。

閲覧時の特別な設定は基本的に不要である。ブラウザの文字コード（エンコーディング）設定は「自動」のままで構わない。

文字化けが起きる場合は、設定を手動で「Unicode (UTF-8)」に変更していただきたい。

【2018 年 6 月以降、カード不使用】ただし、資料情報カード (TXT ファイル) は Shift_JIS で制作しているため、文字化けが起きる場合は、一時的に「Shift_JIS」に変更していただきたい。

スマートフォンで文字化けが起きる場合、ブラウザの設定を変更していただくほか、文字化け解消が可能な専用アプリを適宜ご使用いただきたい。

■ 推奨ブラウザ



IE Internet Explorer 9 以降・・・○（閲覧可。最新の HTML5・CSS3 を用いた部分には未対応。）



Microsoft Edge Microsoft Edge . . . ◎（推奨）



Google Chrome Google Chrome 18.0 以降 . . . ◎（推奨）



Mozilla Firefox Mozilla Firefox 10.0 以降 . . . ◎（推奨）



Opera Opera 10.50 以降 . . . ◎（推奨）



Safari Safari 4.0 以降 . . . ◎（推奨）

最近は、上記以外のブラウザでもほぼ全てのページとコンテンツを不自由なく閲覧できるが、若干レイアウトが乱れる場合がある。

【2016 年以降】当サイトの全てのコンテンツを最も不自由なく閲覧できるブラウザは、Google Chrome と Mozilla Firefox である。

Internet Explorer（以下、IE）は、最新の IE11 の場合も、HTML5・CSS3 の最新機能や WebGL を用いたコンテンツにはあまり対応していないブラウザであるので、ご注意いただきたい。

ただし、Windows 7 においても、標準の IE8 ではなく IE11 のインストールを推奨する。（Windows 7 の後継 OS である Windows 8 には IE11 をインストールすることができないため、ご注意いただきたい。）

Mozilla Firefox では、ご使用のパソコン環境によって一部のコンテンツが閲覧できない場合がある。

（アイコン画像は、各ブラウザ開発会社が定める画像の掲載規定において許可されているものを掲載した。）

■ ブラウザの設定

JavaScript 設定を有効にしていきたい。（標準では有効になっている。）

スタイルシート設定を有効にしていきたい。（標準では有効になっている。）

■ 閲覧画面サイズ・解像度

【2018 年以降、レスポンシブデザインを採用】

メインサイトは、端末に合わせて、サイト上部のレイアウト切り替えボタンでレイアウトを切り替えることができる。ただし、スマートフォンからパソコン用レイアウトで閲覧するなど、好みに合ったレイアウトでの閲覧が可能である。

【2018 年以降、ブログの全ての内容を『全集』に移管し、ブログを廃止】

ブログは、端末に合わせて、自動的にレイアウトが変更される（HTTP リダイレクトなどを使用）。ただし、機種によっては、メインサイトと同様に、サイト上部のボタンから手動でのレイアウト変更が可能である。

■ 推奨オペレーティングシステム（OS）

◆ パソコン

●PC

Microsoft Windows 10 / 8.1 / 8 / 7 / Vista / (XP)

(Windows XP のシェアは現在でも一定以上を占めるが、2014 年 4 月 9 日に XP のサポートが切れたことに伴い、同日以降は XP マシンでの閲覧確認は岩崎の側では行わない。ただし、閲覧者側からの閲覧上の不具合のご指摘には対応している。)

●Macintosh

Mac OS X v10.5～

OS X v10.7～

●BSD 系・Unix 系・Linux など他の OS もほぼ問題なし

◆ タブレット・スマートフォン・旧モバイル

●iPhone、iPad、iPad mini

iOS 4.0 以降

●Android

Android 2.2 以降

●Linux など他の OS・旧モバイル OS もほぼ問題なし

◇スマートフォンでもメインサイト（ブログ以外のコンテンツ）の閲覧は可能であるが、レイアウトなどが乱れる場合がある。

■ PDF ファイルの閲覧や音楽・動画ファイルの再生

PDF ファイルの閲覧には Adobe Reader または PDF 対応ブラウザが必要である。

音楽や動画の再生には各種の再生ソフトが必要である。

第二部 閲覧室の運営・管理システム及び閲覧システム

第二巻から第六巻に記した各女性専用施設とその閲覧室の運営・管理システム、及び、当該閲覧室における IJCA 及び IJCW の情報資料・コンテンツ（製作物・著作物等）の閲覧システムは、複数のコンピューターマシン、HDD、NAS 及びそれらの間のイントラネット、プライベート・ネットワーク等により構築され、厳重に管理される。施設によっては、これらはより上位の情報管理システムに属し、またはシステム室内に構築される。

但し、岩崎はこれらの機械的構築や電子的点検を行い、遠隔管理を含む管理を行う一方で、施設全体及び閲覧室の運営には関与しない。

また、どの情報資料・コンテンツを居住女性に提供するかについての判断も、専ら当該女性施設のスタッフに委ねられる。

第三部 電子書籍、電子学術誌の出版

第二巻から第六巻に記す通り、岩崎純一は、IJCA 及び IJCW に含まれる自身の著作物のうち、出版社に出版権等を譲渡した著作物を除く全部について、出版、刊行を行う全権を保持する。

岩崎の著作物の電子化による（電子書籍や電子学術誌の）刊行のうち、有料での出版は、第二巻から第六巻に記す通り、営利企業としての出版社や公益・一般法人、その他の法人等の刊行者によって、それら出版社等の刊行者と岩崎との間に交わされた契約内容（出版権の譲渡等）に基づいて行われ、岩崎自身は行わない。

一方、大学・学会等が刊行する無料の学術誌・学会誌やオープンアクセス論文（論文集）等、無料の刊行物については、刊行者たる大学等が電子化し刊行を行った場合も、その契約内容により、岩崎が自らの著作物部分を独自に電子化し無料で提供することがある。

また、刊行者が法令や契約内容に違反して岩崎の著作物を頒布・販売することで不当な利益を得た場合の措置は、第六巻に記す通りである。

第四部 外部リポジトリ

岩崎純一及び IJAI は、IJCA 及び IJCW の情報資料・コンテンツ（製作物・著作物等）を主に IJAI のウェブサイトにて提供する一方で、第五巻に挙げる外部リポジトリの運営には関与しない。当該リポジトリの運営方法やシステム等については、各リポジトリの運営者に問い合わせよ。

第七編 岩崎純一の外部活動（講義、フィールドワーク等）における技術提供

岩崎は、第二巻から第五巻に記した女性施設の閲覧室のシステムの構築・管理等をはじめ、協力要請者からの要請に従って技術を提供することがある。

また、岩崎は現在、常時五つほどの法人・団体・個人サイトの制作・更新・メンテナンスを行っている。

別添のシステム変遷表も参照せよ。

第八編 法令に基づく表示

第三巻から第五巻を見よ。これらの記載内容は、電磁氣的技術、情報通信技術活動にも適用する。

第九編 個別の活動に係る各関係者向けの内部規程または注意・留意・表記事項の策定及びその内容

第二巻から第五巻を見よ。これらの記載内容は、電磁氣的技術、情報通信技術活動にも適用する。